

私の推薦する天然記念物

阿蘇カルデラ



阿蘇カルデラの周囲には火砕流堆積物が広く分布して、溶結凝灰岩の見事な柱状節理がみられる場所がいくつもある。私は初めそのような柱状節理の‘名所’を天然記念物に推薦しようと思った。しかし、この特集の東日本編を見るうちに気が変わった。火山岩の天然記念物にやたらと柱状節理が多いのである。もちろん、柱状節理もよいのだけれど、もう一つ、地質系の天然記念物の多くに、悪くいえば、奇石・珍石や奇石・怪石趣味のにおいがすることにひっかかったのだ。変わったものを探すという視点ではなく、自然の壮大な美しさとそれが語るドラマをそのまま受け止めたい。小さな部分でなく、景観全体を感じて、理解してほしいと思った。上高地や大雪山のように、ある範囲内に貴重な物件が多数あるときには、それら全体を一括して天然記念物に指定することができるのだそう。そこで私は、阿蘇カルデラを、その周囲までふくめた全体として推薦します。

阿蘇カルデラは、日本はもちろん、世界でも第一級の、大型で、地形がよく保存されたカルデラである。このカルデラには、南北25 km, 東西18 km にわたる大きな凹み地形、その陥没の原因となった火砕流がつくる周囲の広大な火砕流台地、カルデラ内の中央火口丘は今も煙を吐く活火山、と三拍子そろっている。

阿蘇といえば、灰をふきあげる活動火口を思いう

かべるかもしれないが、中央火口丘だけでも、玄武岩の火砕丘・溶岩流、安山岩の成層火山、デイサイトの水中溶岩、流紋岩の溶岩流などタイプの異なる約20の小火山があり、そのまま火山の博物館といえる。これらの中央火口丘はほぼ東西に並び、カルデラを、北の阿蘇谷、南の南郷谷に二分し、それを囲むカルデラ壁も、低く平らな北壁、高く彫りの深い南壁と、まことに対照的な地形をつくる。

カルデラは4回にわたる大規模な火砕流が流出するごとに陥没して生じた。現在の地形は約9万年前のAso-4火砕流の流出の結果である。Aso-4火砕流の噴出量は1991年の雲仙火山の噴火で‘大型’の火砕流といわれたものの10万倍の規模である。このような大規模な火砕流がつくる台地は、広く、傾斜が緩い。写真は中央火口丘往生岳の北山腹(近景)から北東方を見たもの。一の宮町と水田のひろがる阿蘇谷の北を限るカルデラ壁、その上の阿蘇火砕流の台地はほとんど平ら(傾斜1°以下)だが、遠景の九重火山の溶岩ドーム群に向かって緩く高まるのは、同火山の火砕流台地である。この写真の右手、カルデラから東へ、大分県竹田市へ向かう国道57号は、右の祖母山、左に九重山をのぞみながら、さえぎるもののない火砕流台地をまっすぐに伸びる。日本では珍しいスケールの大きい景色である。ドライブしながら体験する天然記念物があってもよいと私は思います。(応用地質(株) 小野 晃司)